

小 学 校

平成 2 3 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
	研究の概要	
	低学年分科会の実践	6
	第2学年9月実施 「きつねしょうかいブックを作ろう」	
	中学年分科会の実践	12
	第4学年10月実施 「作品と感想とのつながりを説明しよう」	
	高学年分科会の実践	18
	第6学年11月実施	
	「人物同士の関わりをとらえ、人物の生き方についてまとめよう」	
VI	成果と課題	24

研究主題

比較したり関連付けたりして考える力を高める指導の工夫

～文学的な文章を読むことを通して～

I 研究主題設定の理由

今年度から全面実施となった小学校学習指導要領では、児童に「生きる力」を育むことを目指し、知識・技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成を重視している。

東京都が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」によると、東京都の児童は、基礎的・基本的な知識・技能はおおむね身に付いているものの、知識を活用する力に課題があることが分かっている。そのため、東京都教育委員会では、知識を活用する力の課題を明確にし、その定着状況を把握するため、平成 22 年度から「読み解く力に関する調査」を実施してきた。「平成 22 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の結果について」（東京都教育委員会）によると、各教科における「読み解く力に関する調査」の平均正答率が「基礎的・基本的な事項の調査」の正答率と比べると劣っている実態があった。読み解く過程を「①解決に必要な情報を正確に取り出す過程」「②取り出した情報を比較したり関連付けたりして読み取る過程」「③読み取った内容に対して意図や背景、理由などを推論して問題を解決する過程」とした際、国語科における読み解く力に関する調査では、「必要な情報を正確に取り出す力」については 9 割弱の正答率でおおむね身に付いているが、「比較・関連付けて読み取る力」が 7 割弱と未定着なため、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」も身に付いていないことが明らかになっている。

この比較・関連付けて読み取る力について、国語科の授業における児童の状況を振り返ると、文学的な文章の授業において、児童は各場面の様子や登場人物の心情を捉えることはできるが、場面と場面を比較したり関連付けたりしながら、場面の移り変わりの様子を捉えたり、登場人物の気持ちの移り変わりや相互関係を捉えたりすることができず、作品の全体像や根底に流れるテーマ、主人公の心情の奥深くにあるものを推し量ることができないことが多い。

そこで、以上を踏まえて、研究主題を「比較したり関連付けたりして考える力を高める指導の工夫」と設定した。

また、「平成 22 年度 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」では、「説明的な文章の内容を押さえながら読むことについては、相当数の児童ができています」が、「文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むことに課題がある」と述べられている。

また、研究員の所属校でアンケート調査を実施したところ、文学的な文章の授業について、「物語の展開に沿って場面ごとに区切って読ませている」教師が全体の約 93%であった。各学年における指導事項を重点的に指導することよりも、順を追って丁寧に読み進める指導が行われている傾向が分かる。そのため、7 割以上の児童が文学的な文章の読み方として、「場面ごとに読む」という意識をもつ結果となっている。また、児童に文学的な文章の学習の中で印象に残っているものを調査したところ、劇やペープサート、音読発表会が多く挙げられ

ており、「活動ありき」の授業になっていることが分かる。文学的な文章の指導に当たっては、単元で取り上げる指導事項が身に付くための効果的な指導法や、言語活動を通して指導事項を身に付けさせる指導の充実が必要であることが分かる。

これらを踏まえて、研究する領域を「C読むこと」とし、副主題を「文学的な文章を読むことを通して」と設定した。

Ⅱ 研究の視点

比較したり関連付けたりして考える力を高めるために、以下の視点をもって研究に取り組んだ。

○比較したり関連付けたりして考える力に関わる指導事項の明確化

各学年における「C読むこと」の指導事項の中でも、「文学的な文章の解釈」及び「自分の考えの形成及び交流」に関する指導を通して「比較したり関連付けたりして考える力が高められる」と考えた。

○言語活動の工夫

単元で取り上げる指導事項を身に付けるために、指導にふさわしい単元全体を貫く言語活動を位置付ける。

○教材の特性の検討

- ・単元で取り上げる指導事項を身に付けさせるのにふさわしい教材を選ぶ。
- ・教材研究を通し、どの言葉、どの文章等に着目し、どのように比較したり関連付けたりするのか、そして、その結果何が見えてくるのかを明らかにする。

○単元に関わる言語能力についての実態把握

本単元の指導事項に関わる言語能力や言語活動を遂行するために必要な言語能力の実態を把握し、指導に生かす。

○指導過程の工夫

場面ごとに順を追って読むだけでなく、目的に応じて文章全体から必要な場面や叙述を取り出し、場面の様子や登場人物同士の関連を捉えながら読むなどの工夫をする。

○交流の工夫

自分の考えを広げたり深めたりするために適切な交流の場を設定する。

Ⅲ 研究の仮説

「文学的な文章の解釈に関する指導事項」と「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」の指導を充実させていくことで、比較したり関連付けたりして考える力が身に付くと考えた。

例えば、第1学年及び第2学年の文学的な文章の解釈に関する指導事項「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を指導する際、各場面の様子や主人公の行動、会話などを書き出したカードを並べ、行動や会話、場面の様子などを結び付ける指導をすれば、場面の様子や主人公の行動、会話などを、自ら比較したり関連付けたりする力が付き、物語を想像豊かに読むことができるようになるであろう。

また、「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」を指導する際、自分の思いや考えの根拠となる叙述や経験を考え、発表するような指導をすれば、自分の考えに自信がもてたり、よりよい考えに修正したりすることができ、比較したり関連付けたりして考える力が高まっていくであろうと考える。

以上のことから、研究主題に迫るために、次のような仮説を設定した。

— 仮 説 —

「文学的な文章の解釈」及び「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項の指導を充実すれば、比較したり関連付けたりして考える力が身に付き、交流を通してこの力を高めていくことができるであろう。

IV 研究の方法

1 調査研究

平成22年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や平成22年度「全国学力・学習状況調査」等を参考にして、東京都の児童の国語の能力の課題を検討した。

2 教師の意識調査及び児童の実態調査

教師に対して「文学的な文章の解釈」に関する調査を行い、その分析から文学的な文章の指導についての実態を把握した。

また、児童に対して文学的な文章の授業に関する調査を行い、その分析から文学的な文章の授業における課題を把握した。

3 授業検討・検証授業

教育研究員の月例会や低・中・高学年分科会を通し、研究主題に迫るための授業を検討した。また、検証授業を行い仮説の検証を行った。

9月20日(火) 原田 恵一 主任教諭 第2学年「きつねのおきやくさま」

足立区立千寿第五小学校

10月17日(月) 酒見 裕子 主任教諭 第4学年「初雪のふる日」

千代田区立昌平小学校

11月15日(火) 上野 貴美 主任教諭 第6学年「海の命」

渋谷区立富谷小学校

V 研究の内容

研究の概要

【主題設定の背景】

【研究主題】

<p>小学校学習指導要領のねらい</p> <p>「思考力、判断力、表現力等を育む観点から～中略～言語活動を充実すること。」</p> <p>小学校学習指導要領 第1章 総則</p>
<p>児童・生徒の「確かな学力」の向上</p> <p>「知識・技能を活用する力や学習に対する意欲等の育成」</p> <p>東京都教育ビジョン（第2次）重点施策19「『確かな学力』を育成するための授業改善の一層の推進」</p>
<p>感性・情緒の基盤づくり</p> <p>「国語科教育では、「情緒力」「論理的思考力」「思考そのものを支えていく語彙力」の育成を重視していくことが必要である。」</p> <p>「これからの時代に求められる国語力について」文化審議会答申（平成16年2月3日）</p>
<p>東京都の児童の実態</p> <p>平成22年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（正答率）</p> <p>○必要な情報を正確に取り出す力（87.3%）</p> <p>○比較・関連付けて読み取る力（68.7%）</p> <p>○意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力（65.1%）</p> <p>【考察】</p> <p>「必要な情報を正確に取り出す力」についてはおおむね身に付いているが、「比較したり関連付けたりして読み取る力」が未定着なため、「意図や背景、理由などを推論して問題を解決する力」も身に付いていない。</p>

比較したり関連付けたりして考える力を高める指導の工夫
～文学的な文章を読むことを通して～

【研究仮説】

「文学的な文章の解釈」及び「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項の指導を充実すれば、比較したり関連付けたりして考える力が身に付き、交流を通してこの力を高めていくことができるであろう。

小学校学習指導要領解説 国語編 各学年における「C読むこと」の指導事項

	文学的な文章の解釈	自分の考えの形成及び交流
第一学年及び第二学年	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	オ 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
第三学年及び第四学年	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
第五学年及び第六学年	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

【研究の視点】

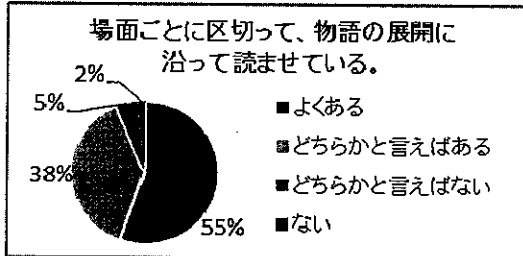
- 言語活動の工夫：単元全体を貫く言語活動の検討、言語活動の特性の検討等
- 教材の特性の検討：単元で取り上げる指導事項を身に付けさせるのにふさわしい教材の選択等
- 児童の実態把握：言語活動を行うために必要な能力の明確化等
- 指導過程の工夫：目的に応じて文章全体から必要な場面や叙述を取り出して読む等
- 交流の工夫：自分の考えを広げたり深めたりするために適切な交流の場の設定等

【意識調査】

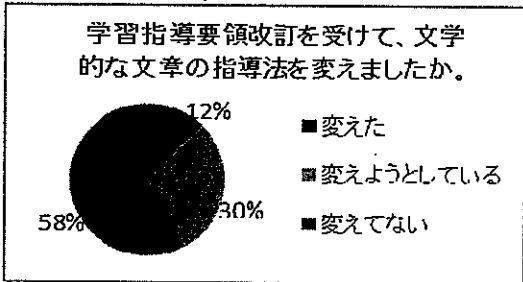
教師の意識調査〔平成23年度教育研究員（小学校国語）の所属校14校の教員139名に実施〕

調査項目と結果

1 現在、文学的な文章を通じた授業の際、どのような授業をしていますか。



2 学習指導要領の改訂を受けて、文学的な文章の指導法を変えましたか。



○指導法をどのように変えたか、又はどのように変えようと思っているかを教えてください。

- ・自分の意見を多く書くことや発表することを多く取り入れるようにしている。
- ・自分が面白い場面について、特に人物の行動、会話に焦点化して、想像したことを記述させている。また、読んで考えたことを発表し合うようにしている。

○今まで、文学的な文章の指導において、やってみてよかったと思う言語活動があれば教えてください。

- ・題名から言葉マップをつくる。
- ・ワークシートに自分の考えを書き込み、グループ交流する。
- ・文中の言葉にこだわる。「なぜ、そうしたのだろう」「おかしいぞ」という言葉や場面を探しながら読むことで、読みを深める音読につなげる。
- ・吹き出しを多用して、思いや文章中にない台詞を考えさせた。絵の得意な子はイラストなどで書き表した。
- ・劇化、動作化、紙芝居、心情曲線、朗読発表会、パンフレット
- ・同じ作者の本を読んで紹介し合う。

考察

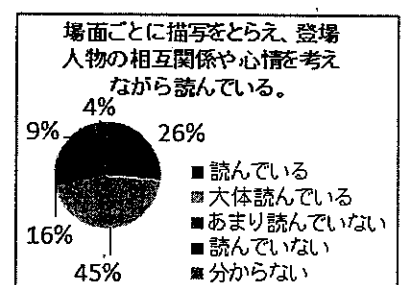
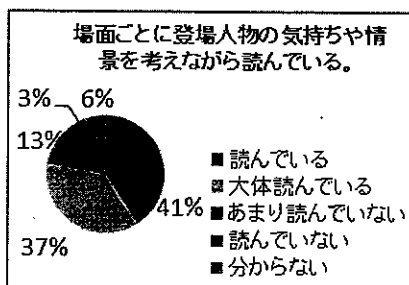
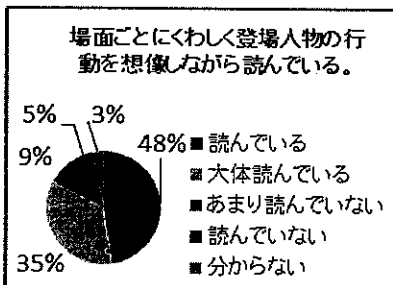
小学校学習指導要領の改訂により、言語活動を充実させ、指導事項を焦点化させた授業づくりが求められている。自分の指導法を見直し、「変えた」「変えようとしている」と回答した教師が約42%いるが、実際の指導では、物語の展開に沿って場面ごとに授業を進めている教師が全体の9割以上いる。この結果から、よりよい指導の在り方を研究し、提案していく必要があると考える。

児童の実態調査〔平成23年度教育研究員（小学校国語）の所属校14校の児童2330名に実施〕

2年生（768名に実施）

4年生（732名に実施）

6年生（830名に実施）



○これまでの国語の物語の学習の中で面白かった学習内容（言語活動）があれば教えてください。

劇、ペープサート、音読発表会等

考察

文学的な文章の学習では、児童も7割以上が「場面ごとに読む」という意識をもっていることが分かる。また、これまでに経験している言語活動で「面白かった」として印象に残っているものが劇やペープサート、音読発表会が多数であることから、多様な言語活動を経験させる必要があると考える。

低学年分科会の実践

1 単元名 きつねしょうかいブックを作ろう

教材名 「きつねのおきゃくさま」 あまんきみこ（教育出版2年上）

2 単元の目標

○場面の様子や場面展開について想像を広げながら、楽しんで読もうとすることができる。

（国語への関心・意欲・態度）

○場面の様子や登場人物の行動・会話に着目して、きつねの様子を想像し、作品全体を通したきつねの様子の移り変わりを読むことができる。

（「C読むこと」ウから）

○読み取った内容と自分の経験を結び付け、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合うことができる。

（「C読むこと」オから）

○主語と述語を捉えて文章を読むことができる。

〔伝統的な言語文化及び国語の特質に関する事項〕

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語に描かれている世界に浸りながら、登場人物の行動や場面展開について想像を広げて楽しく読もうとしている。	・登場人物の行動や会話に着目し、きつねの気持ちについて想像を広げて読んでいる。 ・場面ごとに人物の行動と会話を書き抜いたカードを操作しながら場面ごとの関連性を理解し、作品全体を通したきつねの様子の移り変わりを読んでいる。 ・読み取った内容を基にして、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合っている。	・主語と述語を捉えて文章を読んでいる。

4 教材の特性

「きつねのおきゃくさま」は、同じ場面展開が繰り返される構造をもつ作品である。内容が少しずつ変化しながら同じ場面展開が繰り返されていく物語の構造は、昔話や絵本などに多く取り入れられており、児童にとっては先を予想しやすく、展開が分かりやすいものとなっている。また、繰り返しの構造によって、場面ごとのきつねの行動が比較しやすく、ひよこたちに対するきつねの関わり方が移り変わっていく様子が捉えやすくなっている。

この作品では、最初「えさ」という存在でしかなかったはずのひよこたちを、きつねが自分の命と引き替えにしてまで、おおかみから懸命に守ろうとする姿が描かれている。このような行動をなぜきつねがとったのかを考える上で効果的な叙述として、「やさしい」「親切的な」「かみさまみたいな」「そのうえゆうかな」という表現が、本文中に記されている。これらの叙述ときつねの行動や会話を関連させることで、「ひよこたちと出会ったことによって、きつねの様子がどのように移り変わったのか」について、想像を広げて読むことができると考えた。

本単元の学習中に読書の時間や家庭学習を利用して、きつねが出てくる本を並行して読むようにする（以下「並行読書」とする）。その際、単にきつねが出てくる物語を扱うのではなく、ある出来事（きっかけ）によって、きつねが変化（成長）していく様子が描かれた作品を用意しておく。そうすることで、第二次で学習したことを生かして自分が選んだ作品の中のきつねが、どのように変わっていくのかを読み取るができるようにした。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 言語活動の工夫

○ 単元を貫く言語活動「きつねしょうかいブックを作ろう」

本単元では、きつねの様子が変化することに着目し、どんなきつねなのかを作品全体を通して考えていく。そのために、児童の発達段階を考慮して目的別に3種類のカードを作成する。それぞれのカードに書いてある叙述や会話、きつねの様子を比較したり関連付けたりすることにより、きつねが何をきっかけにして、様子が変化していくのかを考えていく。

「きつねしょうかいブック」には、きつねの行動や会話、ひよこ・あひる・うさぎの会話の中でも特に重要な叙述を書き抜く欄を設けた。このことによって、きつねの様子がどのように移り変わったのかが比較しやすいだけでなく、そのきっかけとなったひよこたちの叙述を関連付けて考える上で効果があると考えた。

第一次では、本教材「きつねのおきやくさま」を学習する前に、きつねの様子が移り変わる他の物語を紹介し、児童がきつねの登場する物語に自然と興味・関心をもてるようにする。

さらに、紹介した作品の中から「きいろいばけつ」について、教師がまとめた「きつねしょうかいブック」を児童に提示する。このことによって、「自分も『きつねしょうかいブック』を作ってみたい」という意欲を児童にもたせるとともに、これから読む「きつねのおきやくさま」に出てくるきつねが、どのようなきつねなのかを意識して学習に取り組めるようにした。

第二次で学んだことを生かして、第三次では自分が選んだ作品について、登場するきつねの様子がどのように移り変わるのかをきつね紹介ブックにまとめる。また、一人一人がまとめたきつね紹介ブックを発表する活動を取り入れることによって、相手に自分の思いや考えを明確に伝えるために、文章の内容と自分の経験と結び付けながら自分の思いや考えをまとめるようにした。

【きつねしょうかいブックについて】

したことカード

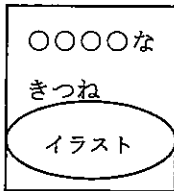
「いや、まだいるぞ。きつねが、とび出した。」

本文の読み取りに使用するカード。叙述からきつねの行動や登場人物の会話を見付け、抜き書きして並べ替えることで、きつねの気持ちを想像する手がかりとする。

行動に関する叙述は白色のカードに書き、会話に関する叙述は黄色のカードに書き、色を分けて比較しやすくした。

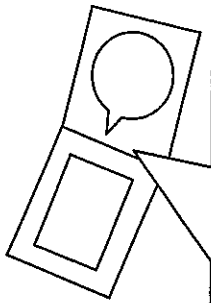
(カードのサイズ 縦9.5cm 横6cm)

きつねポケット



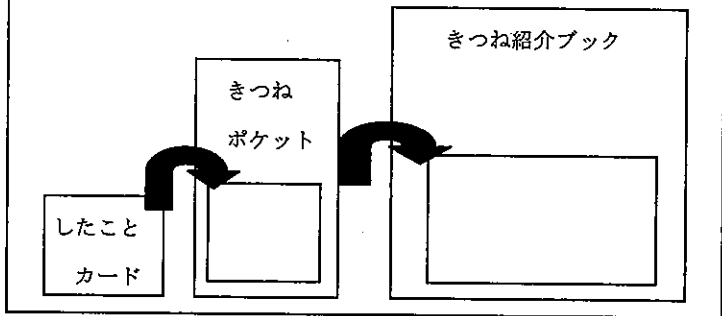
「やさしい」「親切な」「かみさまみたいな」「ゆうかな」きつねの4種類を作る。したことカードを基にきつねの気持ちを想像して記述する欄がある。それに関係する「したことカード」を入れるポケットが内側についている。本時では、きつねポケットを場面の順番ごとに並び替えることで、物語全体を通したきつねの気持ちの移り変わりを想像しやすくした。

(カードのサイズ 縦18cm 横12cm)

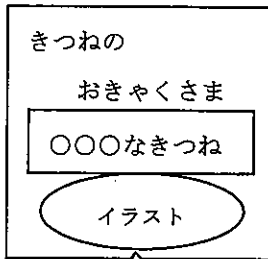


きつねポケットを開くと、上にはきつねの気持ちを書く欄がある。下は「したことカード」を入れるポケットが付いている。

*したことカードはきつねポケットに
きつねポケットはきつね紹介ブックに収納する。



きつね紹介ブック (第二次)

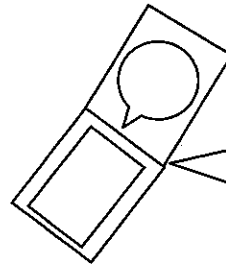


四つのきつねポケットを収納でき、「きつねのおきやくさま」全体を通して、きつねの様子がどのように移り変わったのかを考え、どのようなきつねなのかを紹介するカード

第三次では、きつねが登場する他の作品を読み、どんなきつねなのか紹介する。

(カードのサイズ 縦27cm 横20.5cm)

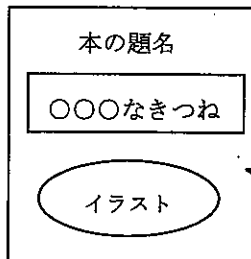
きつね紹介ブックの表紙には、「きつねのおきやくさま」を読み、どんなきつねなのかを書く。



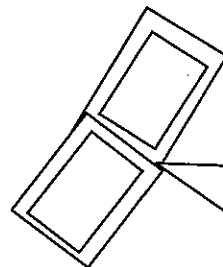
きつね紹介ブック(第二次)を開くと、上にきつねの心情を書く吹き出しがある。下はきつねポケットを入れる袋が付いている。

きつね紹介ブック (第三次)

第三次では、きつねの登場する他の作品を読み、どんなきつねかを紹介する。



きつね紹介ブックの表紙には、物語を読み、どんなきつねなのかを書く。



きつね紹介ブック(第三次)を開くと、上にどんなきつねなのかを考えた根拠となる叙述を書く欄がある。下には、感想を書く欄がある。

(2) 指導過程の工夫

① 児童の実態や教材の特性に応じた学習過程の工夫 ～山場から読む～

初発の感想を書かせた時点で、児童の関心は本教材の山場である「きつねがおおかみと戦う場面」に多く集まると予想される。そこで本単元では、物語の初めの場面から順番に学習

を進めるのではなく、まず児童の興味・関心が集まる「きつねとおおかみが戦う場面」を取り上げる。そうすることで、児童が単元全体を通して読みの課題をもち、意欲的に学習に取り組めると考えた。教師側としては、児童から多くの意見を引き出し、そこから読みの課題を設定することができる。

この場면을学習することで、児童は「どうしてきつねは、最初は食べるつもりでいたひよこたちを守るために、自分の命を引き替えにしてまでおおかみと戦ったのか」「なぜきつねは恥ずかしそうに笑って死んだのか」という疑問を必然的に抱くことになる。おおかみと戦った理由については、「ひよこたちを守るために」（ひよこたち＝おきゃくさま）という意見と、「自分が食べようとしているひよこたちをとられないために」（ひよこたち＝えさ）という意見に分かれると予想される。それを確かめるために、児童は物語全体を読み返す必要性に気付く。そして、きつねの行動を追いながら、場面ごとに想像したきつねの気持ちを比較していくことで、移り変わっていくきつねの様子を読むことができる。

(3) 交流の工夫

① したことカードの並び替えを行う場面での交流

叙述を確認することがお話の大体をつかむことにつながり、場面の様子を考えることができる。

② 四つのきつねポケットを並べる場面での交流

自分が書いたきつねの気持ちと、友達の考えを比べ、同じところや違うところに気付くことができる。

③ きつね紹介ブックの交流

友達の書いた紹介を読み、新しいきつねの本についても感想をもつことができる。

6 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準（評価方法）
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○きつねが登場する作品の紹介を聞く。 ○「きいろいばけつ」の話を聞き、どんなきつねが出てきたかを話し合う。 ○教師の作った「きいろいばけつ」のきつね紹介ブックを見て、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の紹介を聞き、きつねが出てくる物語に興味・関心をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆図書室や地域の図書館から選んだ作品を紹介し、身近な作品であることを伝え児童が興味をもつような作品を用意しておく。 ☆自分が興味・関心をもった作品（きつねが登場する作品）の並行読書をさせる。
		きつねしょうかいブックを作ろう		
		<ul style="list-style-type: none"> ○「きつねのおきゃくさま」の範読を聞き、初発の感想をノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どんなきつねなのかを考えながら、範読を聞くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆きつね紹介ブックの見本を提示し、学習の見通しをもたせる。 ☆感想の視点を与える。 （どんなきつねか、心に残ったこと、不思議に思ったこと） ■きつねの出ている物語に興味をもち、「きつねのおきゃくさま」

			の初発の感想を進んで書いている。 (関：ノート・観察)	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を音読し、物語の内容の大体を確認する。 ○初発の感想を発表し合い、読みの課題をもつ。 ○どんなきつねなのかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうかんなきつね ・親切なきつね ・やさしいきつね ・かみさまみたいなきつね 	○感想を発表し合い、読みの課題をもつこと。	<ul style="list-style-type: none"> ☆物語の大体の展開を把握するために挿絵を提示して、内容や登場人物を確認する。 ☆児童の感想を板書して、どの場面に感想が集まっているのかを確認し、読みの課題を共通理解する。 ■感想を基に読みの課題をもっている。(読：発表・観察) ■主語と述語を捉えて文章を読むことができる。(言：発表・観察) 	
二	3	「きつねのおきやくさま」を読んで、きつねしょうかいブックを作ろう		
	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を音読する。 ○どんな戦いだったのかを確認し、その時のきつねの行動について書かれている叙述を書き抜く(した事カード)。 ○なぜきつねは戦ったのかについて、自分の考えを発表し合う。 ○きつねの行動から、きつねの気持ちを想像してきつねポケットに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きつねが戦っている行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読み取った内容を基にして、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合うこと。 ○きつねの行動を手がかりにして、気持ちを考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆行動を追うことが気持ちを読み取ることにつながることを押さえる。 ☆した事カードの書き方を確認する。 ☆おおかみの強さや戦いの場面のイメージを広げるために挿絵を提示する。 ■読み取った内容を基にして、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合っている。(読：発表・観察) ■きつねの様子や気持ちが分かる叙述を基に、様子や気持ちを考えながら読んでいる。(読：学習カード) 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「やさしいきつね」の場面を音読する。 ○した事カードに、どんなきつねなのかが分かる叙述を書き出し発表する。 ○きつねの気持ちを想像してきつねポケットに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きつねとひよこの行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○きつねの行動や気持ちを表す叙述を書き抜くこと。 ○きつねとひよこの行動を手がかりにして、気持ちを考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆会話を別の色のカードに書き、した事カードと区別する。 ■きつねの行動や登場人物との会話から、きつねの気持ちを想像してカードにまとめている。(読：学習カード・発表)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「親切なきつね」「かみさまみたいなきつね」の場面を音読する。 ○した事カードにどんなきつねなのかが分かる叙述を書き出し発表する。 ○きつねの気持ちを想像してきつねポケットに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きつねやひよこたちの行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○きつねの行動や気持ちを表す叙述を書き抜き、比較すること。 ○きつねの行動を手がかりにして、気持ちを考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆前時のカードを読み返して、学習の見通しをもたせる。 ☆登場人物の気持ちを想像する際に、叙述に即して考えることを確認する。 ■きつねの行動や登場人物との会話から、きつねの気持ちを想像してカードにまとめている。(読：学習カード・発表)
	6	○物語の初めと終わりのきつねの気持ちを確認し、学習のめあてをつか	○学習の見通しをもつこと。	☆初めはひよこたちを太らせてから食べようと思っていたが、守

	<p>む。</p> <p>○きつねポケットの内側に書いたきつねの気持ちを並べ、きつねの気持ちの移り変わりを考える。</p> <p>○全文を音読する（一人一人読む）。</p> <p>○きつねがひよこたちを助けた理由について考える。</p>	<p>○どのようにきつねの気持ちに移り変わったのか考えること。</p> <p>○きつねの気持ちの移り変わりを考えながら読むこと。</p> <p>○したことカードやきつねポケットを手がかりにして考えること。</p>	<p>るためにおおかみと戦ったことを確認する。</p> <p>☆きつねポケットを拡大したものを黒板に提示し、気持ちの移り変わりを学級全体で考えられるようにする。</p> <p>☆きつねの気持ちの移り変わりを意識して読むように確認する。</p> <p>☆ひよこ、あひる、うさぎとの出合いを想起させる。</p> <p>■きつねの気持ちの移り変わった理由を考えながら読んでいる。 (読：ノート・発表)</p>
7	<p>○全文を音読する。</p> <p>○はずかしそうにわらってしんだ時のきつねの気持ちを想像し、発表する。</p> <p>○きつね紹介ブックにどんなきつねなのかを書く。</p>	<p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>○場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。</p>	<p>☆きつねの気持ちの移り変わりを意識して読むように確認する。</p> <p>☆どんな時に恥ずかしいのか、どんな時に笑うのかを考えさせる。</p> <p>☆絵本にある挿絵を提示する。</p> <p>☆どんなきつねなのか、したことカードやきつねポケットに書いてあることから、考えさせる。</p> <p>■きつねの気持ちを、叙述を基に想像して書いている (読：学習カード)</p>
三	<p>8</p> <p>すきな本をえらんできつねしょうかいブックを作ろう</p>		
	<p>○きつねが登場する他の作品を読み、どんなきつねなのかをきつね紹介ブックに書く。</p>	<p>○きつねの行動や会話に着目して読むこと。</p> <p>○読み取ったきつねが、どんなきつねなのか自分の思いや考えをまとめること。</p>	<p>☆第二次で学習した「きつねの変化」に着目してきつね紹介ブックを書くことを確認する。</p> <p>■自分が選んだ作品に出ているきつねについてまとめている。 (読：学習カード)</p>
9	<p>○「きつねしょうかいブック」を発表し合う。</p>	<p>○読み取った内容を基にして、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合うこと。</p>	<p>☆きつねの行動がどのように変化したのかを伝えることを確認する</p> <p>■読み取った内容を基にして、自分が考えたことをまとめ、友達と紹介し合っている。 (読：発表・観察)</p>

中学年分科会の実践

1 単元名 作品と感想とのつながりを説明しよう

教材名 「あとかくしの雪」 木下順二 (岩波少年文庫)
「初雪のふる日」 安房直子 (光村図書 4 年下)

2 単元の目標

- 自分や友達が作品を読んで感じたことや考えたことに注目して読もうとすることができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、
叙述を基に想像して読むことができる。 (「C読むこと」ウ)
- 作品を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。
(「C読むこと」オ)
- 語句には性質や役割の上で類別があることを理解することができる。
〔伝統的な言語文化及び国語の特質に関する事項〕

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・作品を読んだ感想は、どの叙述からきているのかを考えて読もうとしている。	・白うさぎや雪の降る様子、女の子の表情から場面の移り変わりを捉えている。 ・雪の白さやよもぎの緑、女の子のほほの色などの情景を表す文や語句から、女の子や白うさぎの気持ち、その変化を読み取っている。 ・作品を読んだ感想がどの叙述に基づいているかを明らかにしながら説明し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づき、学習感想にまとめている。	・天気を表す言葉、色や触った感じを表す言葉、繰り返し出てくる言葉など、役割の上での語句の類別があることを理解し、文章を読んでいる。

4 教材の特性

主教材「初雪のふる日」は、場面が絵巻物のように移り変わり、それとともに登場人物の気持ちの変化が描かれるファンタジー作品である。児童は、「この子はどうなってしまうだろう」「どんなにか心細いだろう」と、緊張感と好奇心をもつであろう。

また、作品の世界にのめり込むことのできる要因の一つとして、豊かな表現が挙げられる。天気を表す言葉、色を表す言葉、触った感じを表す言葉、大きさや数などを表す言葉、繰り返し出てくる歌などを用いて、場面の様子を豊かに表現している。場面の移り変わりや中心となる人物の変容、登場人物の相互関係など、様々な読みの視点で作品の世界を味わうことができる。

児童には、作品の中で繰り返し使われる言葉や情景描写によって、作品から受ける印象が異なることに気付かせたい。

第一次で読む作品「あとかくしの雪」は、民話である。短い文章で読みやすく、登場人物や展開がはっきりしている。児童の感想は、登場人物と結末に集中することが予想され、「作品と感想とのつながりを説明しよう」という言語活動の導入に適している。

並行読書として児童の選ぶ作品は、安房直子の作品とした。安房直子の作品は、ファンタジーの要素や展開、色彩語など、共通点が多い。並行読書の作者を主教材の作者と合わせることで、第二次での学習を効果的に個々の読書に生かすことができると考えた。

比較したり関連付けたりして考える力を高めるためには、児童が主体的に思考を繰り返す場面が不可欠であると考え。そこで本単元では、複数の作品を扱い、児童の感想を生かした学習を進める。自分が作品を読んで感じたイメージを土台に、叙述で表される展開を読み取り、更に深い作品のイメージをつくっていく。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として、「作品と感想とのつながりを説明しよう」を位置付けている。これは、第二次で学んだ読み方を生かしながら、叙述を基に作品を読んだ感想を説明することをねらいとしている。作品の豊かな表現方法が、「寂しい」「怖い」といった素直な感想を生み出す要因だと気づき、さらに、場面の移り変わりや登場人物の変容と結び付けることで、比較したり関連付けたりして考える力を高めることができると考えた。

また、叙述を基に感想を交流することで、視点が明確になり、容易に一人一人の共通点や相違点に気付くことができるようになる。説明については二人組や3～4名のグループで行う。

(2) 指導過程の工夫

① 導入時に読む教材・主教材・並行読書の効果的な設定

第一次の導入時に読む教材を通して体験したことが、単元を貫く言語活動「作品と感想とのつながりを説明しよう」を生み出す。導入時に取り組みやすい教材を設定することで、児童は単元終末の活動をイメージしやすく、学習の見通しをもつことができる。第二次では、第一次での見通しから、主体的に主教材を読み進め、同時に、児童は興味・関心に応じて並行読書を始める。その際、主教材で学んだことを並行読書に生かせるように、学んだ読みの視点を明確にしておく。第三次では、読み進めた作品を扱って友達に作品と感想とのつながりを説明する。

単元全体を通して、複数の作品を導入時に読む教材・主教材・並行読書に位置付けることによって、それぞれの作品の共通点や相違点を基に、比較したり関連付けたりして作品と感想のつながりを考える場面を生み出す。

② 学習課題の焦点化

比較したり関連付けたりして考える力を高めるために、考える目的を明確にする。そのた

めに、児童の感想を基に学習計画を立てる。児童の感想を生かしながら教師が意図的に児童の感想を分類・整理し、毎時の学習課題を焦点化する。そうすることで、目的意識が高まり、主体的な学習が期待できる。

(3) 交流の工夫

① 学びを定着させる場面での交流【二人組】

第二次第4時から第6時までの毎時のまとめとして、二人組での交流を行う。作品と感想とのつながりを考えることを通して学んだ読みの視点(場面の移り変わり、登場人物の変化、登場人物の関係)に沿って作品を読み、自分の感想を叙述と結び付けて友達と説明し合う。学んだことを表現することで、読みの視点の定着を図りたい。短時間で全員の表現活動を保障するために二人組が最適であると考えた。

② 学びを活用する場面での交流【グループ】

第三次では、並行読書によって読み進めた作品に対する感想を叙述と結び付けて友達と説明し合う。それぞれが違う作品について語り合うことで、聞き手は自分の読んだ作品と比べたり、着目した視点と関連させたりしながら考えることができる。読書の広がりとともに、学んだことを生かしながら、比較したり関連付けたりして考える力が高まることが期待できる。交流の形態を3～4名のグループとすることで、同じ視点で別の作品を読んだグループ、別の視点で同じ作品を読んだグループなど、様々な立場の聴き合いが設定できる。

6 学習指導計画(8時間扱い)

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準(評価方法)
一	1	<p>○導入時に読む教材「あとかくしの雪」を読み、感想をもつ。</p> <p>○感想を交流し、作品のどの部分から感想をもったのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような感想をもった友達とグループを作る。 ・感想を基にグループの名前を付け、短冊に書く。 <p>○感想が、作品のどの部分から生まれるのかを考えていくことを課題に、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○叙述に基づいて感想をまとめること。</p> <p>○一人一人の感想の共通点や相違点に興味をもつこと。</p> <p>○学習を進めるための課題をもつこと。</p>	<p>☆観点を示さず、素直な気持ちを自分の言葉でまとめられるように促す。</p> <p>☆グループで感想を伝え合う。その中で使われた言葉から共通する言葉を使って名前を付けるように指示する。</p> <p>☆名前の短冊を、登場人物、展開、場面、出来事のグループに分類して黒板に掲示する。</p> <p>■作品を読んだ感想と叙述との関係について考えようとしている。</p> <p>(関：ノート・発表・観察)</p>
<p>作品と感想とのつながりを説明しよう</p>				

二	2	<p>○主教材「初雪のふる日」の範読を聞く。</p> <p>○初発の感想を書く。</p> <p>○安房直子の作品の並行読書を始める。</p>	<p>○叙述に基づいて感想をまとめること。</p>	<p>☆「あとかくしの雪」や理科での学習、体験を想起させながら初雪のイメージを膨らませる。</p> <p>☆登場人物の様子や情景などの叙述を基に、どのような感じがしたのかを、初発の感想に書かせる。</p> <p>■「初雪のふる日」を読み、心に残った言葉、不思議だと思ったところに着目しながら感想を書いている。</p> <p>(読：ノート・発表)</p>
「初雪のふる日」と感想とのつながりを説明しよう				
	3	<p>○初発の感想を交流し、共通する言葉や似た言葉から毎時の学習課題を立てる。</p> <p>○終末の活動をイメージし、学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○友達の感想との共通点や相違点に注目すること。</p> <p>○学習の見通しをもつこと。</p>	<p>☆初発の感想を共通する視点で3時間分に分けて印刷した用紙を配布する。</p> <p>☆共通している言葉に注目させる。</p> <p>■「初雪のふる日」の感想を友達と交流し、学習の見通しをもっている。</p> <p>(関：ノート・発表・観察)</p>
	4	<p>○初発の感想から「暗い感じ」を叙述から説明することを確認する。</p> <p>○暗い色、明るい色を発表し合い、色のイメージを共有化し、本時の課題をつかむ。</p> <p>○作品の中の「白」を意識して、全文を音読する。</p> <p>○叙述を基に、場面の移り変わりを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白うさぎの存在 ・雪の降り方 ・女の子の表情 	<p>○本時の課題をつかむこと。</p> <p>○色彩表現を基に、場面の移り変わりに注意して読むこと。</p> <p>○語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。</p>	<p>☆学習計画を基に自分でめあてをノートに書くように促す。</p> <p>☆一番多く使われている色が「白」であることを確認し、感想と色のイメージとの差を明確にする。</p> <p>☆「白」に関わる表現に着目させ、白うさぎと雪の様子の叙述を短冊で提示する。</p> <p>☆白うさぎの有無を場面に応じて確認し、白うさぎの役割と感想の結び付きから色のイメージを捉えさせる。</p> <p>☆白うさぎや雪に着目して捉えたことを生かして、女の子の表情を表す色で場面の移り変わりをまとめさせる。</p>

	<p>○自分の選んだ視点で場面の移り変わりをまとめる。</p>	<p>○場面の移り変わりを色の変化と比較したり関連付けたりしてまとめること。</p>	<p>■語句には性質や役割の上で類別があることを理解している。</p> <p>(言：ノート・発表)</p> <p>■作品中に登場する色や周りの様子(天気・登場人物)から、場面の分け方と場面の移り変わりについてまとめている。</p> <p>(読：ノート)</p>
5	<p>○初発の感想から「助かって良かった。」を叙述から説明することを確認する。</p> <p>○全文を音読し、女の子が助かった様子を捉え、本時の課題をつかむ。</p> <p>○女の子の行動や様子を[初め・きっかけ・終わり]の段階に分けて読み取り、変化の図にまとめる。</p> <p>○作品全体を通した、女の子の変化をまとめる。</p>	<p>○本時の課題をつかむこと。</p> <p>○女の子の変容を様子や行動から、まとめること。</p>	<p>☆学習計画を基に自分でめあてをノートに書くように促す。</p> <p>☆女の子が助かっていく出来事の順序や経緯を全体で押さえる。</p> <p>☆女の子の行動や様子を同じ視点で取り上げながら変化を考えさせる。</p> <p>☆視点が一貫してまとめられているものは、黒板にも提示する。</p> <p>■女の子の変容をまとめている。</p> <p>(読：ノート)</p>
6	<p>○初発の感想から「歌が気になる。」を叙述から説明することを確認する。</p> <p>○全文の音読を通して、女の子や白うさぎの会話や歌を捉え、課題をつかむ。</p> <p>○女の子と白うさぎの会話や歌、しぐさを役割読みする。</p> <p>○白うさぎの歌と女の子のおまじないとの関係を読み取る。</p> <p>○白うさぎの歌の変化と女の子との関わりを関連付けてまとめる。</p>	<p>○本時の課題をつかむこと。</p> <p>○場面の様子や登場人物の行動を整理すること。</p> <p>○登場人物相互の関わりを読み取ること。</p>	<p>☆学習計画を基に自分でめあてをノートに書くように促す。</p> <p>☆白うさぎの会話や歌と女の子の会話や歌を分けながら、叙述を黒板に短冊で提示する。</p> <p>☆歌のおもしろさは、登場人物の関わり合いからも味わうことができることに気付かせる。</p> <p>☆女の子も白うさぎも歌っているところを指摘する。</p> <p>■女の子のなぞかけによって白うさぎの歌が変わることをまとめている。</p> <p>(読：ノート)</p>

三	7	自分の読んだ作品と感想とのつながりを友達に説明しよう		
		<p>○並行読書した作品の中から、友達に説明したい作品を選び、学んだ視点に沿って感想をまとめる。</p> <p>①場面の移り変わり ②登場人物の変化 ③登場人物の関係</p>	<p>○叙述に基づいて自分の感想をまとめること。</p>	<p>☆「初雪のふる日」を読んで学んだ視点を確認する。</p> <p>■作品中の場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化、登場人物同士の関係に着目して、感想をまとめている。</p> <p style="text-align: right;">(読：ノート)</p>
	8	<p>○並行読書した作品と読んだ感想とのつながりを説明し合い、互いの感じ方を交流し、学習のまとめをする。</p> <p>・同じ視点グループ ・別の視点グループ</p>	<p>○自分の感想が、友達の感想と比べて、どのような特徴をもつのかに気付くこと。</p>	<p>■作品を読んだ感想がどの叙述に基づいているかを明らかにしながら説明し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づき、学習感想にまとめている。</p> <p style="text-align: right;">(読：ノート・発表・観察)</p>

高学年分科会の実践

- 1 単元名 人物同士の関わりをとらえ、人物の生き方についてまとめよう
教材名 「海の命」 立松和平（光村図書6年）

2 単元の目標

- 叙述を基に、人物同士の関わりや出来事と関連付けながら、登場人物の生き方について読もうとすることができる。（国語への関心・意欲・態度）
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、人物の生き方について自分の考えをまとめることができる。（「C読むこと」エ）
- 人物の生き方が書かれた様々な作品を読み、人物の生き方についての考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。（「C読むこと」オ）
- 比喩や擬人法などの表現の工夫に気付くことができる。

〔伝統的な言語文化及び国語の特質に関する事項〕

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・叙述を基に、登場人物の相互関係から、生き方を読み取ろうとしている。・人物の生き方が書かれた他の作品を読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・人物の相互関係や心情、場面の描写を捉え、太一の生き方や考え方を読み取っている。・人物の生き方が書かれた作品を読み、交流を通して考えを広げたり深めたりしている。	<ul style="list-style-type: none">・比喩や擬人法などの表現の工夫に気付いている。

4 教材の特性

「海の命」には、太一と太一を取り巻く自然や人間との触れ合いを通して、命や生き方、自然との共生を学び、人間的な成長を遂げる太一の姿が描かれている。人間の成長の過程には、周囲の人間の存在や出来事が大きく関わっていることに気付かせてくれる作品である。

太一の成長には周囲の人物の言葉や行動が影響を与えており、登場人物相互の関係を捉えるというねらいに適した教材であると考えられる。太一に影響を与えたであろう事柄を取り出し、与吉じいさ、おとうの考え方や生き方に共通点を見いだしたり、太一の行動と比べたりすることで、二人の生き方がどのように太一の生き方に関わっているのかを物語全体を通して考えられることが期待される。

並行読書においても、人との関わりの中で主人公の考え方や気持ちが変わったり、生き方を見いだしたりしていく作品を読み、人物の生き方について自分の考えを広げていけるようにした。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 言語活動の工夫

① 人物の生き方に着目した学習活動の設定

単元を貫く言語活動として、「人物の生き方についてまとめよう」を位置付けている。単元の導入では、児童が第5学年で学習した「大造じいさんとがん」を例に、がんとので出来事と関連付け、大造じいさんの生き方をまとめたものを示し、物語から主人公の生き方を考えていく活動の見通しをもてるようにした。

② 物語全体から人物の相互関係を捉える学習シート

登場人物の相互関係を捉えるために、太一の生き方や考え方に影響を与えた人物の言動や出来事を関連付けて学習シートにまとめていく。叙述を基に、人物同士の関係を矢印や言葉で結び付け、太一の生き方についてふかんに捉えられるようにする。この学習シートが主人公の生き方をまとめる際の手だてとなる。

学習シートは児童の実態に応じて、3種類用意する。必要な情報が書き込まれた用紙や、工夫して表現できる白紙の用紙を、児童が自分で選べるようにする。

(2) 指導過程の工夫

① 山場の場面から考える学習課題の設定

本単元では、学習活動の最初に、児童の興味・関心が高い山場の場面から学習課題を作る。太一の心情の大きな変化を捉えるには、それまでの太一の成長の過程を知る必要があることに気付かせ、太一に関わってきた人物の言動や出来事に着目して、相互関係を捉えることに読みの視点をもたせる。

② 主教材と並行読書の効果的な設定

第三次では、並行読書をしてきた人物の生き方が書かれた本の中から、一人の人物の生き方をまとめる活動を設定している。「海の命」の学習で、おとうや与吉じいさの言動、クエとの対面といった出来事を関連付けて太一の生き方についてまとめる活動を行った児童は、次に自分が読んだ作品の主人公の生き方についてまとめていく。

(3) 交流の工夫

① 人物の相互関係を捉える場面での交流

叙述から考えられる人物の関連性を交流することで、関係の多様性に気付かせる。

② 山場の場面における主人公の心情を捉えるための交流

友達と自分の考えの共通点や相違点に気付き、主人公の心情をより深く考えられるようにする。

③ 並行読書における交流

並行読書をしてきた作品をまとめ、主人公の生き方に対する考えを交流し合うことで、考えを広げたり、深めたりできるようにする。

6 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準(評価方法)
一	1	<p>○5年生で学習した「大造じいさんとがん」の物語を想起する。</p> <p>○大造じいさんの生き方をまとめたものを見て、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○生き方について興味をもつこと。</p> <p>○学習を進めるための課題をもつこと。</p>	<p>☆人との関わりや出来事が生き方に関係していることが分かるようにまとめたものを掲示する。</p>
		<p>主人公の生き方についてまとめよう</p>		
		<p>○人の生き方が書かれた作品を並行読書する。</p> <p>○物語から主人公の生き方を考えられるように「海の命」を学習していくことを知る。</p> <p>○「海の命」の題名から物語を想像する。</p> <p>○範読を聞く。</p> <p>○登場人物の生き方で心に残った場面や、疑問に思ったことなどを書く。</p>	<p>○叙述に基づいて自分の感想をまとめること。</p> <p>○比喩や擬人法などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>■全文を読んで、心に残った場面や疑問、簡単な感想を書いている。</p> <p>（関：ノート・観察）</p> <p>■比喩や擬人法などの表現の工夫に気付いている。</p> <p>（言：ノート）</p>
二	2	<p>「海の命」を読み、太一の生き方をまとめよう</p>		
		<p>○前時に書いた感想を交流しながら</p>	<p>○一人一人の感想の</p>	<p>☆児童の感想を交流しながら</p>

二	<p>ら、簡単なあらすじを確認し、太一の成長過程をつかむ。</p> <p>○太一の成長過程にあった出来事についてまとめる。</p> <p>○山場の場面から学習課題を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>クエをとらないと決めた太一の気持ちを考えよう。</p> </div> <p>○課題解決の見通しをもち、ワークシートにまとめる。</p>	<p>共通点や相違点に興味をもつこと。</p> <p>○叙述を基に主人公の成長過程と出来事についてまとめること。</p> <p>○物語の山場をつかむこと。</p>	<p>ら、簡単なあらすじをつかませる。</p> <p>☆太一の成長していく過程が分かる言葉に着目させる。</p> <p>☆なぜ、児童の感想が第5場面に多いのかを考えさせ、この場面から太一の生き方を考えられることに気付かせる。</p> <p>☆太一の今までの成長を知ること、この課題が解決されていくことに気付かせ、人物との関わりに着目させる。</p> <p>■「海の命」の感想を交流し、学習の見通しをもっている。</p> <p style="text-align: right;">(関：発言・観察)</p>
3	<p>○太一の生き方に影響を与えた人物の行動や言葉を学習シートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を押さえる。 ・書き出す際の視点を知る。 ・必要な言葉や行動、出来事を書き出す。 	<p>○叙述から登場人物の相互関係を捉え、まとめること。</p>	<p>☆前時の課題解決の手だてを想起させ、書き出す際の視点は「太一の成長に影響を与えたであろう人物の言葉や行動、出来事」であることを確認する。</p> <p>☆個に応じて、学習シートを3種類用意する。</p>

			<p>■太一の成長に影響を与えた人物の言葉や行動、出来事を書き出している。</p> <p>(読：学習シート)</p>
4	<p>○人物の言葉や行動が太一にどのような影響を与えているのか、矢印や言葉を使ってまとめる。</p> <p>○グループで、比較したり関連付けたりした根拠を話し合う。</p>	<p>○叙述を基に、人物同士の関係を捉えること。</p>	<p>■交流を通して、おとう、与吉じいさの生き方と太一の成長を関連付けて考えている。</p> <p>(読：学習シート・発表)</p>
5	<p>○太一がクエをとろうとした思い、とらないとした思いについて考える。</p> <p>○「クエをとる」気持ちに関係する文を赤、「クエをとらない」気持ちに関係する文を青で色分けする。</p> <p>○太一の気持ちや、その根拠についてグループで交流する。</p> <p>○全体で交流し、クエをとらなかった太一の気持ちを考え、まとめる。</p>	<p>○登場人物の言動と主人公の心情を関連付けて考えること。</p> <p>○心情について捉え、自分の考えをまとめること。</p>	<p>☆クエと出会った太一の葛藤の基となっているものは何か、今までの成長過程を振り返ることで考えさせる。</p> <p>■おとうや与吉じいさの生き方との関わりを考え、太一の心情についてまとめている。</p> <p>(読：学習シート・発表)</p>
6	<p>○太一の生き方についてまとめる。</p> <p>・他の登場人物の存在が太一の成長に大きく関わっていることを捉え、太一の生き方についてま</p>	<p>○読み取った主人公の生き方についてまとめること。</p>	<p>☆これまでの学習を振り返り、太一が人との関わりの中で自分の生き方を見出したことを確認し、太一の生き方に影響を与え</p>

		とめる。 ○太一の生き方についての自分の考えを学習シートに書く。	○主人公の生き方について、自分の考えをまとめること。	たおとうや与吉じいさの言動を入れるように助言する。 ■太一の生き方について、おとうや与吉じいさの言動や出来事と関連付けて自分の考えをまとめている。(読：学習シート)
三	7	並行読書してきた作品の主人公の生き方をまとめよう		
		○並行読書で読んできた作品について、「海の命」で学んだ視点に沿って、主人公の生き方についてまとめる。 ・登場人物の生き方 ・登場人物の関わり ・重要な言葉や行動、出来事	○読み取った主人公の生き方についてまとめること。	☆主人公の生き方を、人との関わりや出来事と関連付けながらまとめるように促す。 ■人々との関わりや出来事と関連付けて主人公の生き方についてまとめている。 (読：学習シート)
	8	○並行読書をした主人公の生き方や登場人物の関わりについて、紹介し合う。	○作品を読んで考えたことを読み合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること。	■主人公の生き方に対する考えを交流し合うことで、考えを広げたり、深めたりできる。 (読：発表)

VI 成果と課題

【各分科会の成果と課題】

	成果	課題
低学年	<p>○目的別のカードを使うことによって、登場人物の行動や会話、気持ちを視覚的に比較したり関連付けたりすることができ、考える手立てとなった。</p> <p>○場面を教材の山場から読むことで、児童に物語全体を読む必要性をもたせ、単元を通して読みの課題に取り組むことができた。</p>	<p>○作成したカードが多くなった。カードを比較するときに、混乱しないように、叙述の精選が必要である。</p> <p>○並行読書の作品は単に同じ動物が出てくる作品を読むのではなく、第1次、第2次で登場人物の様子の変化を読み取る学習をするのであれば、学習したことを生かせる作品を用意する必要がある。</p>
中学年	<p>○全文を繰り返し音読することで、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えやすくなり、必要な叙述を比較したり関連付けたりする力が身に付いた。</p> <p>○同じような感想をもった友達と感想を交流する活動を設定したことで、友達の感想と似ているのか違うのかを考える力が高まった。</p>	<p>○第二次で学んだ読みの視点を第三次で生かせるように、一単位時間でどのような力を付けたのかを明確にし、毎時間の授業の最後に確認できるとよい。</p> <p>○児童の思考の流れが複雑にならないよう、比較したり関連付けたりする場面を整理し、一単位時間の中で、どこに位置付けていくと効果的かを考えていくことが必要である。</p>
高学年	<p>○学習課題を解決するために、登場人物の行動や言動を比較したり関連付けたりすることで考える力を高めることができた。</p> <p>○児童が最も興味・関心をもつ場面、太一がクエをとらなかつた場面を中心に学習を進めることで、目的意識をもちながら読み進めることができた。</p>	<p>○クエを「とる」ことの根拠を赤で、「とらない」ことの根拠を青で色分けしたが、明確な「とらない」ことの根拠が見つかりにくかった。</p> <p>○指導事項に示された力を定着させるのに適した図書を選定について、より検討が必要である。</p>

【全体の成果と課題】

成果	課題
<p>○単に場面ごとに読み進めていく学習ではなく、学習課題を設定し、その解決のための学習計画を設定することで、小学校学習指導要領のねらいに沿った研究することができた。</p> <p>○読みの視点を明らかにし、必要な情報を比較したり関連付けたりすることで、児童の考える力が高まった。</p>	<p>○比較したり関連付けたりするための言語活動について、今回の研究で取り扱ったもの以外ではどのような活動が考えられるのか、更に検討していく必要がある。</p> <p>○低、中、高学年の系統的な指導において、発達段階に応じた指導方法を更に研究していく必要がある。</p>

平成23年度 教育研究員名簿
小学校・国語

低学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
江東区	第五砂町小学校	主幹教諭	宮崎 路子
中野区	北原小学校	主任教諭	長澤 由美
足立区	千寿第五小学校	主任教諭	○原田 恵一
八王子市	緑が丘小学校	主任教諭	佐々木恵里
多摩市	多摩第二小学校	主任教諭	田中 静香

中学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	昌平小学校	主任教諭	酒見 裕子
世田谷区	砧南小学校	教諭	○西田 太郎
武蔵野市	関前南小学校	主任教諭	五十嵐幸一

高学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
大田区	入新井第二小学校	主任教諭	小木 和美
渋谷区	富谷小学校	主任教諭	上野 貴美
荒川区	第三日暮里小学校	主任教諭	清野 一美
小平市	小平第六小学校	教諭	柿原 直昭
東村山市	化成小学校	主任教諭	◎西村 太吾
東村山市	回田小学校	主任教諭	○河又 学

◎世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 富永 大優

平成 23 年度
教育研究員研究報告書
小学校 国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画